

飛躍する台湾産業



台湾の百貨店業界

激しさを増す小売業界において、百貨店は非常に強く、業態全体では売上を伸ばしている。また、各商圏のコア物件として、地域の経済を引っ張る力となっている。しかし、その一方で業界内部では非常に激しい競争が行われているが、その中で日系或いは日本ブランドの百貨店は非常に好調である。今回はこの百貨店業界の動向並びに、百貨店に関する消費者の意識等を紹介する。

台湾の百貨店業界は小売業界の中では花形存在である。小売業界は百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、量販店、その他に分類される。この中で百貨店、コンビニエンスストアは順調にその販売額を伸ばしている。最近開発が進んでいるショッピングセンターは政府による明確な定義はなされていないが、統計上は百貨店に計上されている。コンビニエンスストアや量販店など様々な業態が出てきたとはいえ、台湾では百貨店はまだまだ小売業界の王者として、小売業並びに各地の商圏を引っ張っている。

ただし、百貨店業界の中を見ると、ローカルの百貨店を中心に淘汰は相当に進んでおり、積極的な投資が可能な大手の百貨店に集約されていく状況が分

かる。中華民國百貨零售企業協会によると売上額では新光三越と太平洋SOGOの二社が個別店舗の売上及び全体の規模で圧倒していることが分かる。ローカル系の百貨店の中では遠東グループが唯一100億元の大台に乗っている。

台湾の調査会社、東方線上E-ICPの2004年度調査結果でも、最もよく行く百貨店は新光三越25%、太平洋SOGO19%、続いて遠東12%、衣蝶5%、中友5%、廣三SOGO4%と続き、日系百貨店の強さを際立たせている。

そもそも、太平洋SOGOが1987年に台湾市場に

表1：小売業業態別売上額（単位：億元）

	百貨店	スーパーマーケット	コンビニエンスストア	量販店	その他
2000年	148,834	74,457	115,113	129,124	102,043
2001年	154,746	76,983	128,092	136,671	96,290
2002年	172,411	75,857	141,778	141,680	91,106
2003年	169,328	79,842	153,802	143,040	98,784
2004年	191,092	85,133	163,768	139,698	110,258

出所: 中華民國購物中心協会ホームページ

表2：営業額上位百貨店グループ（2004年度）

	店舗数	営業額
新光三越	12	548億元
太平洋SOGO	7	300億元
遠東百貨	9	172億元
衣蝶百貨	5	95億元
漢神百貨	2	80億元
中友百貨	1	76億元
廣三SOGO	1	73.5億元
微風廣場	1	60.3億元
大葉高島屋	1	60億元

出所: 中華民國百貨零售企業協会ホームページ



参入する前は、台湾で百貨店と言えばオフィスビルの低層階で展開するのが一般的であった。しかし、太平洋 SOGO が日本的な百貨店のモデルを導入して大成功し、その後、日本式百貨店は日系、ローカルを問わず台湾の百貨店の主流になる。現在では台湾内の多店舗展開力で新光三越に水をあけられたとはいえ、太平洋 SOGO の忠孝店は単店舗で 150 億元 / 年の売り上げを上げる台湾一の店舗である。

AC ニールセンの台湾 3 大主要都市の購買商圈調査によると、台北の消費活動は非常に盛んであり、士林、台北駅前の二つの商圈が若干の衰退を見せた。他はその他の商圈では全て人の流れは増加している。特に信義計画区は新光三越 A9 館、101 モールの開幕などがあり、2004 年度は大幅に伸び台北の第三番目の商圈になった。そして、忠孝東路の SOGO 付近、及び西門町が 2003 年度に続いて 1 位、2 位を守った。台中では三民太平洋商圈が 2003 年度に続いて 2004 年もトップ、新光三越商圈は中港商圈を抜いて 2 位になった。高雄市では、五福商圈、三多商圈が二大商圈であり、その他高雄駅前、塩埕商圈がこれに続く。

東方線上 E-ICP の 2004 年度調査結果によると、百貨店の中でもっとも良く行くコーナーは、フードコート / 飲食 39%、女性服飾 36%、日用品 32%、男性服飾 25%、靴 22%、化粧品美容品 21% となっている。また、百貨店に行く際の考慮点として、商品種類がそろっている 42%、駐車が便利である 32%、自分の趣味や年齢にあっている 32%、セールや割引が有る 31% であった。

上記の調査のようにフードコート・レストランは百貨店にとって非常に重要なコーナーであるが、百貨店やショッピングモールなどで、日系ブランドをそろえるところが多い。飲食関係のみならず日本ブランドの店舗を優良なコンテンツとしてどれだけ呼べるかがショッピングモールや、百貨店の一つの成功の鍵とも言える。

一方、テナントとなる日系ブランド企業にとっても、歩合賃料を負担する必要があるとは言え、一定の集客の見込めるショッピングモールや百貨店への進出は、台湾進出への手堅い一歩ともいえる。

表 3 : 台北市主要商圈の百貨店概況

商圈	百貨店	概況
信義商圈	新光三越	A11、A8、A9が営業中 A4館2005年開幕予定
	紐約・紐約	6,400坪
	台北101	23,000坪
忠孝商圈	統一誠品	約1万坪、2005年開幕予定
	太平洋SOGO	忠孝店、敦南店12000坪
西門商圈	微風廣場	年末改装予定
	遠東百貨	4億元の大改装実施済み
南西商圈	誠品商場	西門店、116店與武昌店
	新光三越	南西店
天母商圈	衣蝶百貨	本館及びS館
	大葉高島屋	売場面積8,500坪
	新光三越	天母店、売場面積4,000坪

資料出所：工商時報2005/8